

タレント 野村 将希



代表
平 真也

創業 70 年以上になる老舗畳店の四代目。 販路を拡大しつつ、畳の文化を守り続ける

1951年の創業から70年以上の歴史を誇る『平畳店』。現在の平代表はその四代目だ。最近は和室のない家が多くなり、畳の需要も減っているというが、どんな時代になってもなくなる仕事ではない。その中で畳工事や畳替え、表替えはもちろん、内装工事、リフォームまで幅広く手掛けている。本日はタレントの野村将希氏が訪問。祖父や父の後を継いで経験を積み重ねてきた代表にお話を伺った。



——『平畳店』さんは随分と長い歴史をお持ちだそうですね。

ええ。1951年の創業からでは70年以上になり、私で四代目です。子どものころから跡取りと言われて育ちましたが、祖父も父も厳しい人だったため、精神的に参ってしまった時期があったんですよ。畳業界は家族経営が多くて、当社も忙しい時は家族総動員。休日に友達と遊びたくても仕事を手伝わなければならず、当時はそれが本当に嫌でした。もともと仕事を継ぐつもりもなかったの

ですが、これだけの歴史がありますから、私の代で終わらせてしまうわけにはいかないという思いから家業に入ることを決意しました。

——重圧もありますよね。では、学業を終えられて、すぐにこちらに入られたのでしょうか。

そうです。学生時代から手伝っていたとはいえ、業界の中では素人ですし、会社では一番の下っ端でしょう。本当なら作業場での雑用からスタートするのですが、父はお客様に納品する時に私を同行させるんですよ。すると従業員からの当たりも強くてね。「いきなり納品か」と言われたものです。

——下積みから頑張ってきた従業員さんには、思う所があったのかもしれない。かといって、平代表のせいでもない。先代には何か考えがあったのでしょうか。

ええ。少し前なら丁稚奉公もあったような世界ですから、古くからの慣習も

残っていて、まだ10代だった私にはなかなか厳しい環境でした。けれどもある時、父と一緒にお客様のところへ納品に行った時に言われた言葉をきっかけに、意識が大きく変わったんです。

——それはどのような言葉だったのでしょうか。

「畳の業界ってすごいね」と。「うちの寝床にまで入ってくるような業界はなかなかない。信頼がないと頼めない」と言っていたのです。その時に改めてすごい仕事なんだと実感し、そこから前向きに勉強するようになりました。ですからもしかしたら、父もそういったことを知ってほしかったのかなと、今になって思いますね。

——意識が変われば、仕事を覚える早さも違ってくるでしょう。

はい。嫌々やっていけば、何をやって身に付かないですよ。畳業界にも国家資格があって、二級技能士の資格があれば商売はできるのですが、全国では一級を取得されている方も多くいます。ただ、岩手で一級技能士を取得している人は10人もいないんです。やるならば、とことん腕を磨きたいという思いで、父の了解を得て、資格取得に向けて勉強を始めた。そうして二級、一級を取得することができたのです。とはいえ、資格を取ったからといって終わりではありませんし、まだまだ日々勉強です。

——岩手で10人もいないと言われる資格を持っているなんて、それだけで胡座をかいてしまいそうです。社長は前向きで、ストイックだ。途中で辞めたいとか、他の仕事をしたいと思われたことはなかったのでしょうか。



「チラシやSNSを活用して、畳の魅力を積極的にアピールされているという平代表。お祖父様やお父様の時代には考えられなかったことかも知れませんが、今の時代に合わせた戦略も必要ですね。老舗ならではの伝統を大切にされながらも、新たな挑戦をされている代表。今は会社にとっても、ちょうど変革の時期なのかも知れませんが、私も応援させていただきます！」 野村 将希・談

それで言うと、今が正念場ですね。というのも、最近は和室がない家も増えているでしょう。マンションなどは特にその傾向が強く、畳の需要がどんどん減っているんです。このままでは将来大丈夫かという不安もありますし、新たな販路を拡大しなければと思っています。

——先代もそういった新しい取り組みは行ってこられたのですか。

はい。畳だけではなく、クロスなどの内装工事、リフォーム工事も手掛けるようになり、仕事の幅を広げてくれたので感謝しています。畳業界は当社だけでなくどこも苦勞していますが、畳の原料である「い草」の生産者さんたちも苦境に立たされていてね。中国から安いものが入ってきて、生活できない農家さんもいらっしゃると思います。その中でできる限り国産の材料を使い、良いものを提供することで農家さんにも貢献していきたいと考えています。

——お祖父様やお父様から引き継がれて大事にされていることはありますか。

この仕事は「作業3割・納品7割」と言われていますが、畳を設置する段階でちょっとサイズが合わなくてもごまかすことができるんですね。けれども、少しでもおかしいと思えば、お客様がそれで良いとおっしゃっても持ち帰って直すようにしています。また、祖父からは「お客様に対してはいつも笑顔でいるように」と教えられてきたので、それを心掛け、従業員にも徹底しているんですよ。——社長の笑顔は本当に素敵です。従業員さんは若い人も多いのでしょうか。

はい。私は38歳で業界では若いほうですが、従業員はもっと若い20代が多



く、女性もいます。SNSなども使って会社をアピールしているので、若い人にとって親しみやすいのかも知れません。——業界にとって活力になりますし、若い方が多いのは良いことですよ。では最後に、これからの展望を。

私自身、畳の商売で食べさせてもらったので、今度はこの仕事を子どもたちに引き継げるようにしていきたいですね。畳の需要が減っているとはいえ、なくなる仕事ではないと思っていますし、日本文化の1つとして後世に引き継いでいく一助になればいい。そして、この地域では「畳のこなら『平畳店』」と誇っていただけるよう、息子たちが稼げる基盤を作りたいですね。

(2022年3月取材)

機能やデザインなど、畳の魅力を発信！

▼昔は一戸建てだけでなく、アパートやマンションなどの集合住宅でも和室はあったものだが、最近はフローリングが主体で、和室が全くないという住まいも増えている。その中で畳や障子、襖などに携わる業者は厳しい状況に追いやられ、廃業するケースも少なくないという。それでも和室がなくなることはないし、畳は一度設置したら終わりではなく、傷んでくると交換も必要なので、日本にはなくてはならない商売だ。

▼「畳は適度なクッション性があり、防音性、高断熱性能にも長けています。さらに湿度を調節する機能、空気の浄化作用もあり、リラックス効果や集中力をアップさせる効果も期待できる」そうだ。最近では畳のデザインも多種多様で、正方形の畳や、フローリングの上に敷ける畳なども人気だ。『平畳店』では、「畳の良さをもっと知ってもらいたい」という思いから、そういった機能性やデザイン性をアピールする他、畳や畳のヘリを使った小物も製造など、今後も事業拡大に励んでいく構えだ。

有限会社 平畳店

【本店】岩手県胆沢郡金ヶ崎町栄町 11-3

【北上店】岩手県北上市中野町二丁目 16-8

URL : <http://www.taira-tatami.com>